



東京都小金井にある浴恩館で開催された研修会の集合写真（昭和23年）  
 ※上から2段目、右から8番目の眼鏡をかけた女性が節子

た。

この講習会への参加をきっかけとして、7月に労働省・福岡婦人少年室主任に任命され、労働省の官僚として女性や子どもの労働問題に携わっていくこととなります。

この時期、節子を影ながら応援していた小説家豊島与志雄の思いが、火野葦平に宛てた手紙から読み取ることができます。

「セツチャリン女史、婦人少年部の地方役人になった由。うまくやれるかどうか。御後援下さい」（火野葦平寄託資料北九州市立文学館所蔵）

これは昔、内弟子として節子をかわいがっていた豊島与志雄の気遣いの手紙です。

昭和24年（1949年）8月、神奈川県少年室長へと転任した節子は、連合軍兵士などと日本人女性の間生まれた子どもたちの収容施設であるエリザベス・サンダース・ホームを訪問。取材し、昭和27年（1952年）10月に著書「混血児」を出版しました。

この作品は当時の日本政府や国民に、戦争の落とし子として生まれた子ども達を、どのように育てていけば良いのかを問題提起した著書で、この作品を原作として翌年に映画も公開されました。

■ 昭和22年（1947年）

5月 福岡県婦人団体協議会の発足に尽力

衆議院議員 福田昌子と婦人児童問題研究所を設立

5月3日 日本国憲法施行日に夫・山下利助氏と離婚

7月 筑紫海会（福岡女子大学同窓会）の初代会長に就任

■ 昭和23年（1948年）

3月 福岡女学校退職

7月 労働省福岡婦人少年室主任に就任

■ 昭和24年（1949年）

8月 労働省神奈川県婦人少年室長に就任

この頃、エリザベス・サンダース・ホームの沢田美喜を支援

■ 昭和25年（1950年）

2月 筑紫海会会長を辞任

■ 昭和27年（1952年）

10月 著書「混血児」発表  
その後映画化

■ 昭和28年（1953年）

5月 労働省東京婦人少年室長に就任

■ 昭和29年（1954年）

3月 著書「人身売買」発表